



神医 FAXニュース

第539号

編集・発行 神奈川県医師会

毎月第1・第3水曜日発行

TEL.045-241-7000

FAX.045-241-1464

インターネットホームページ
http://www.kanagawa.med.or.jp

オン資、義務化対象の未導入機関は「見積もりを」

-日医・長島常任理事-

日本医師会の長島公之常任理事は14日の会見で、オンライン資格確認の導入を加速させていく考えを示した。その一環として、8月31日付の都道府県医師会宛ての文書で、オンライン資格確認を導入していない、原則義務化の対象となる全医療機関の医師に、導入に向けたシステム事業者からの見積もりの取得を依頼したことなどを明かした。

長島常任理事は、オンライン資格確認の導入に向けたフローチャートを作成したことも紹介。「まずは導入義務対象が免除措置対象か見極めてもらい、導入義務対象であれば導入見積もりも依頼してもらおう。その後もできるだけ分かりやすいようなフローチャートにした」などと説明した。フローチャートには、導入見積もり依頼とカードリーダーの申し込みは並行して進められることにも触れている。

また、見積りを依頼する際には、▽事業者としてオンライン資格確認導入作業に対応可能か（不可能な場合、対応可能な他の業者を紹介できるか）▽推奨するカードリーダーの機種があるか（特になければ医療機関側の好みで機種を選定）▽導入費用・保守費用の金額▽事前を含め、必要な作業の内容（医療機関側、業者側）▽運用開始までにかかる期間—を確認するように呼びかけた。

長島常任理事は、「地域に業者が見つからない」「保守料が高い」など、導入に課題があることが明らかになった場合には、日医ホームページ（HP）のメンバーズルーム内に設けた「オンライン資格確認相談窓口」に情報を寄せてほしいとした。

また、8月24日に開催した三師会・厚生労働省合同のオンライン説明会の後に、相談窓口を拡充して以降、HP経由での相談が80件以上、電話やメールでの相談が数十件寄せられていることにも触れ、「全国から寄せもらった情報は、厚労省やオンライン資格確認推進協議会と共有し、課題解決のための情報提供や業者への協力をお願いなどに使用する」と述べた。

メディファクス9月15日

オン資原則義務化、8割が「反対」

-保団連調査-

全国保険医団体連合会（保団連）は6日、オンライン資格確認システム導入の原則義務化に関する緊急アンケート結果を公表した。原則義務化には78.6%が「反対」と回答し、64.9%が「必要性を感じない」としていた。結果を踏まえ、保団連は「義務化を押し付けるのではなく、医療現場の声に耳を傾けて、原則義務化の方針を撤回すべき」と訴えている。

8月10日の中医協で、医療機関・薬局へのオンライン資格確認システム導入を原則義務化する療養担当規則の改正案が答申されたことを受け、保団連は8月12～31日に緊急アンケートを実施した。保団連のメールマガジン登録会員4196人（医科2493

人、歯科1703人）に送付し、489件（回答率11.6%）の回答があった。運用を開始した医療機関の33%ではトラブルが発生していると回答。具体的には「データ上のトラブル」や「機器関連のトラブル」などが多かった。メディファクス9月7日

医師年金アンケート（認知度調査） にご協力を

日本医師会では、日本医師会年金（医師年金）に関しまして、普及推進策を検討するためのデータの収集を目的に、医師年金制度のアンケート（認知度調査）を実施します。

所要は数分です。医師年金の加入の有無にかかわらずご回答いただけます。

・回答方法：以下のURLか右のQRコードからご回答ください

<https://forms.gle/Qu6sTdnjoCJjzX67>



・回答締切：令和4年10月31日（月）入力分迄
担当：日本医師会 年金福祉課
03-3942-6487（直）（平日9：30～17：00）

日本医師会 **医師年金**

令和4年度神奈川県医療安全 推進セミナー

—診療所や薬局など小規模施設における
院内感染予防対策について—
～これまでの取組みと新型コロナへの新たな対応
：なぜクラスターが発生しないのか？～

講師／昭和大学歯学部歯科保存学講座

総合診療歯科学部門客員教授 片山 繁樹 氏

日時／令和4年11月20日（日）

10：00～11：40（受付9：00）

対象／県内の医療関係者

参加費／無料

応募締切／10月31日（月）まで

集合形式はFAXで申し込み／30名（先着）

神奈川県歯科保健総合センター6階（横浜市中区住吉町6-68）

WEB形式はWebで申し込み／350名（先着）Zoomウェビナーを使用

主催／神奈川県医療安全対策事業実行委員会

（神奈川県、神奈川県医師会、神奈川県病院協会、
神奈川県看護協会、神奈川県薬剤師会、神奈川県
歯科医師会）

※詳しくは神奈川県医師会トップページバナー（会員専用）



WEB参加の方

最	旬	医	界	
		情		報

オン資の閲覧情報拡大、「より質の高い医療につながる」

—加藤厚労相—

加藤勝信厚生労働相は9日の閣議後会見で、今月11日からオンライン資格確認等システムを活用して閲覧できる情報が拡大する意義について、医療現場などで患者のさまざまなデータを踏まえた診断・診療を行うことで、より質の高い医療につながることを挙げた。

加藤厚労相は、レセプトに含まれる患者のこれまでの受診歴や検査の実施状況などの診療情報が閲覧可能となり、患者本人もマイナポータルでこれらの情報を閲覧できるようになることを紹介。その上で「国民が全国のどの医療機関で診療を受けても、より正確な医療情報が共有されるようになり、日常の診療時だけでなく、救急や災害の場面でも、より迅速に適切な医療を受けることができるようになる」と強調した。

患者本人が情報を見ながら自身の健康管理につなげていくことができる点も意義の一つとして挙げた。

メディファクス9月12日

救急搬送で番号カード実験

—6消防、受診歴活用—

総務省消防庁は8日、マイナンバーカードの健康保険証機能を活用し、救急搬送時に傷病者らの受診歴や薬の処方歴などを取得する実証実験を、10月から前橋市消防局や熊本市消防局など6消防で実施すると発表した。救急隊がオンラインで入院や通院の情報を速やかに確認し、適切な搬送先の決定と効果的な治療につなげるのが狙い。

実験は、病院や薬局が受診歴、健康診断結果、処方歴をオンラインで共有しているシステムを利用する。事前に権限を得た救急救命士が、健康保険証として登録したマイナンバーカードを所持しているかどうかを本人に確認。情報の活用に同意が得られれば、その場で読み取り、受診歴などを確認して搬送先を決める。

他に、兵庫県姫路市、宮崎県都城市の2消防局と石川県加賀市、滋賀県彦根市の2消防本部で実施。応募があった15消防から、人口規模やマイナンバーカード普及率を考慮して選んだ。

12月下旬まで実施し、結果は消防庁の有識者検討会に報告する。認知症や意識不明などで意思疎通ができない場合への対応は、今後検討する。【共同】

メディファクス9月12日

出生子ども数平均、過去最低の1.9人

—出生動向基本調査—

国立社会保障・人口問題研究所は9日、第16回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)の結果を発表した。結婚から15~19年が経過し、子どもを生み終えたとみられる夫婦の

出生子ども数の平均値(完結出生児数)は1.90人(前回2015年調査=1.94人)で過去最低となった。

夫婦の完結出生児数は、2002年の第12回調査までは2.2人前後で安定的に推移していたが、その後低下し、今回調査では1.90人まで減少した。

結婚持続期間15~19年の夫婦の出生子ども数を見ると、出生子ども数が1人の夫婦割合が増加し、全体の19.7%(前回15年調査=18.5%)を占めた。出生子ども数が0人の夫婦も7.7%(6.2%)に増加した。一方、出生子ども数が2人の夫婦割合は低下し、50.8%(54.1%)となった。平均出生子ども数を結婚持続期間別に見ると、結婚後0~4年の夫婦の子ども数は0.70人(前回15年調査=0.78人)、5~9年は1.61人(1.59人)、10~14年は1.95人(1.84人)だった。

不妊の検査・治療を受けたことがある夫婦は22.7%(前回15年調査=18.2%)に増加した。調査時点で、結婚5年未満の夫婦の6.7%が不妊の検査・治療を受けていた。不妊について心配したことがある夫婦は全体の39.2%だった。調査は昨年6月に妻の年齢が55歳未満の夫婦9401組を対象に実施した(有効回答数6834組)。

調査は原則5年ごとに行っている。20年調査は新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期された。

メディファクス9月12日

心筋シート初の遠隔地移植

—大阪~東京500キロ輸送—

順天堂大病院と大阪大病院のチームは12日、人工多能性幹細胞(iPS細胞)から作った「心筋シート」を、大阪から約500キロ離れた東京に運び、重症心不全患者の心臓に移植する手術を行ったと明らかにした。大阪大で作ったシートを大阪大で移植した例はあるが、遠隔地に運んで移植したのは初めて。術後の経過は良好だという。

安全性と有効性を検証する臨床試験の一環で実施した。順天堂大心臓血管外科の松下訓准教授は「シートは48時間以内に到着できる場所であれば輸送可能で、日本全国や世界の主要都市で移植できる可能性がある。この治療法が浸透するための第一歩となり、とても意義深い」と話している。

チームによると、移植を受けたのは60代男性。急性心不全で心臓が弱まり、入退院を繰り返してきた。手術は8月中旬、大阪府の企業が作製した心筋シートを専用のケースで冷やしながらから新幹線と車で順天堂大病院まで運び、3枚を心臓の表面に貼り付けた。男性は近く退院する予定という。

チームは、東京女子医大や九州大などでさらに4例の移植を行う予定。2024~25年後半の実用化を目指している。【共同】

メディファクス9月14日

手足口病、定点当たり3.32で2週連続増

—感染症週報第34週—

国立感染症研究所は9日、感染症週報第34週(8月22~28日)を公表した。手足口病の定点当たり報告数は3.32となり、2週連続で増加した。都道府県別の上位は山形(10.79)、宮城(8.81)、北海道(7.09)。報告数は1万397例。

定点把握の対象となる主な5類感染症の報告数は、手足口病以外は過去5年の同時期と比べて少ない状況だ。

メディファクス9月12日